

杉並のイラストレーター展開催中

11月4日、杉並区役所2階ギャラリーで、杉並区を活動拠点としているイラストレーター21組の作品を紹介する展示会が始まりました。今回は、これまでに関わってきた作品の紹介に加え、イラストと絵画の違いを解説。また、日替わりで、イラストレーターが会場で、来場者に案内をしてくれます。展示は11月13日まで行われていますので、ぜひご来場ください。

今日から始まった「杉並のイラストレーター展」は、2011年に次いで、今回が2回目の開催です。イラストレーター仲間が、自分たちの活動をPRすることが目的で開催しています。前は、イラストの展示を中心としていましたが、来場者からイラストと絵画は、どのように違うのかとの質問が多く寄せられたため、今回はイラストができるまでを解説したパネルも設置しました。

その解説によると、アーティスト自身の芸術を追求する絵画や彫刻などと違って、イラストは「目的のための手段」として描かれる絵画で、そもそもの語源は「光を当てる」というところからきています。

会場で案内をしていた上丸健（かみまるたけし・44歳）さんは、杉並区在住のイラストレーターです。イラストレーターとして活動を始めたばかりの平成18年に、実家が阿佐ヶ谷駅近くで銭湯「開楽湯」を開業していたことから、杉並区内の銭湯で定期的に行われている菖蒲湯やハーブ湯などのポスターを手掛けるようになりました。開楽湯は、その直後に廃業してしまいましたが、ポスターの仕事は引き続き担当してきました。また、このポスターを継続して担当した実績から、少しずつ仕事も増えていきました。

上丸さんによると、「イラストは、発注者から与えられたテーマや目的に沿って、何度も打ち合わせをして、絵を描いていくので与えられたミッションをこなす、その達成感や相手の思うようなイメージに作品が出来上がった時には、みんなで喜ぶところが魅力です。」と話していました。

それ以外にも、杉並で活動するイラストレーターがデザインしたエコバッグやポストカード、紙芝居など色彩豊かな作品が、数多く並んでいます。展示は、11月13日までとなっています。



【問い合わせ先】

総務部広報課：電話 3312-2111